

○ 地域医療ビジョンの実現に向けて

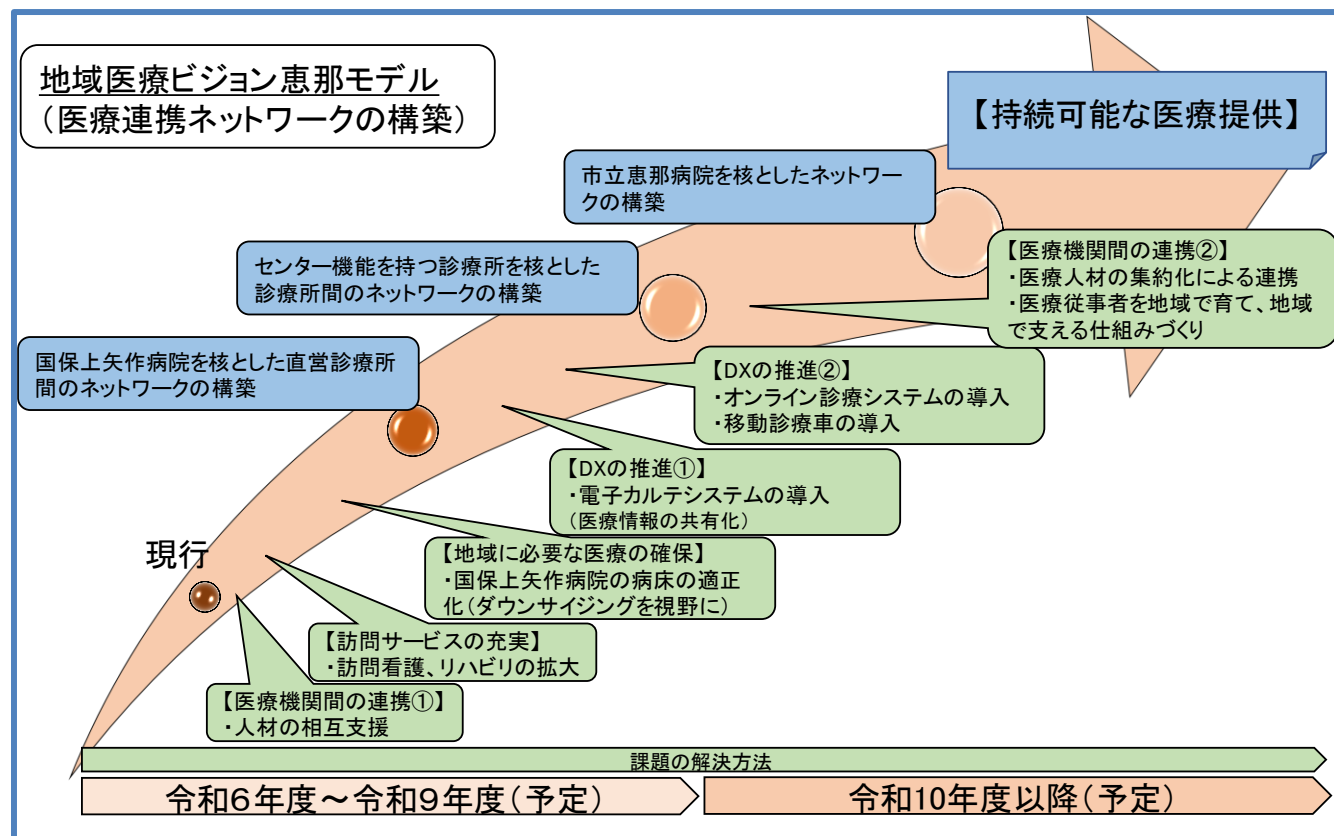
地域医療ビジョン恵那モデルを推進するため、段階的に事業を展開します。

第1段階は、公的医療機関間の連携として、医療人材の相互支援を行う仕組みを構築します。また、在宅介護、在宅診療が必要な方の増加に伴い、訪問看護や訪問リハビリテーションなどのサービスの充実を図ります。

第2段階は、国保上矢作病院の病床数の適正化や直営診療所間の人的ネットワークの構築を図り、医療施設の建替え等の検討を行います。

第3段階は、電子カルテを導入し、医療情報の共有・ネットワーク化を図ります。通院困難な方へのオンライン診療システム及び移動診療車の導入等を検討します。

第4段階は、市の中核医療機関である市立恵那病院と診療所の連携強化を図り、第1次及び第2次救急医療体制の機能分化・強化を図ります。



☆SDGsの視点を踏まえた計画の推進

本市は、内閣府から「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」として選定されています。SDGsの趣旨を踏まえて、恵那市地域医療ビジョンを展開します。



恵那市地域医療ビジョン 概要版

発行日 令和6(2024)年3月

発行者 恵那市医療福祉部地域医療課

住所 〒509-7292

恵那市長島町正家一丁目1番地1

TEL 0573-26-2111(代表)

FAX 0573-26-2136

E-mail chiikiiry@city.ena.lg.jp

恵那市地域医療ビジョン 概要版



恵那市公式キャラクター
エーナ

令和6（2024）年3月

○ 地域医療ビジョン策定の背景と目的

恵那市には2病院（市立恵那病院、国保上矢作病院）、5医科診療所（国保飯地診療所・国保三郷診療所・国保岩村診療所・国保山岡診療所・国保串原診療所）の7つの公立医療機関があり、各地域の特性の中で公立医療機関としての役割を担い、地域医療の確保に努めてきました。

一方で地域医療を取り巻く現状は、人口減少、少子高齢化に伴い、患者数及び医業収益の減少、医療人材の確保が困難など厳しい状況にあります。

こうした状況の中、将来にわたり必要な医療サービスを安定的かつ継続的に提供するため、現状の課題を整理し、今後の市の医療の在り方についての基本方針「恵那市地域医療ビジョン」を策定することになりました。

○ 地域医療ビジョン策定にあたって

恵那市地域医療ビジョンの策定にあたり、専門的な見地や市民の皆様の意見を反映するため、学識経験者、医師会、公的医療機関の長、地域自治区、福祉関係者、国保運営協議会の各代表及び公募市民による「恵那市地域医療ビジョン策定委員会」を設置し、多岐にわたる様々なご意見をいただき、検討を重ねました。

一方、地域医療は、医師法や岐阜県保健医療計画書等に基づき実施されるものであり、また恵那市総合計画及び医療・福祉・保健・介護・健康等の各計画との整合性を図り策定しました。

地域医療ビジョン恵那モデル

恵那市が目指す地域医療ビジョンは、将来にわたり必要な医療サービスを安定的かつ継続的に提供することです。

恵那市が抱える医療資源の課題として、人口減少に伴う患者の減少と高齢化、医師及び医療スタッフの確保、医療の効率化と経営の安定化、公立医療機関の施設の老朽化等があります。

これらの課題を解決し、将来に向けた地域医療を展開するため、「地域医療ビジョン恵那モデル」と称し、市立恵那病院を核とした医療連携ネットワークを構築していきます。

地域医療ビジョン恵那モデル 5つのミッションと今後の取り組み

1. 医療人材の人的ネットワークの構築

方向性

- 市内の複数の診療所を複数の医師及び医療従事者で支えるなど、医療従事者の共有化を図る仕組みを構築する。
- 市内外の医療機関と連携を強化し、医師や医療従事者の確保に向けた取り組みを行う。

今後の取組

- 人的ネットワークによる複数の医師が複数の診療所で診察をするしくみをつくる。
- 各医療機関の規模や機能等を見直し、医療従事者の適正配置を行う。
- 新興感染症や大規模災害時における対応可能な体制づくりを検討する。
- 運営主体が異なる医療機関、福祉施設の法人化も一つの手法として視野に入れ、検討する。

2. 医療情報の共有化

方向性

- 医療情報のデジタル化を推進し、医療機関間における情報の共有化を図る。
- オンライン診療システムを整備し、患者の利便性の向上、業務の効率化を図る。
- 超高齢化が進み在宅介護・在宅医療を必要とする方の増加が見込まれる中、医療機関に來れない方に向けた移動診療車（モバイルクリニック）の導入を検討する。

今後の取組

- 医師がどの公立医療機関にいても、患者情報が確認できるしくみをつくる。
- 共通の電子カルテシステムを導入し、医療情報のネットワーク化を図る。
- 地域集会所等を活用し、公立医療機関からオンラインで診療できるシステムをつくる。
- 患者の通院負担を軽減するため、移動診療車（モバイルクリニック）の導入の検討する。

3. 公立医療施設の経営改善と医療資源の最適化

方向性

- 人口動態による医療ニーズの変化、施設の老朽化、医療従事者の確保状況に応じ公立医療機関のダウンサイジングや効率化について検討する。
- 地域医療構想等調整会議を注視し内容等を検討する。

今後の取組

- 既存の公立医療機関を継続・維持する一方、規模や機能に合った診療日及び診療時間等を見直しを行う。
- 国保上矢作病院は地域医療構想等調整会議を踏まえた病床数を見直す（ダウンサイジングを視野に）。
- 各公立医療機関の医療機器等を規模や機能に合わせた再配置を行う。
- 医療資源を活用した市民の健康づくりの啓発を行う。
- 将来に向けた恵那市と隣接する中津川市と広域による医療提供体制を検討する。

4. 地域包括ケアシステムの充実

方向性

- 医療・介護・福祉が連携し、市民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう地域包括ケアシステムの充実に向けた医療体制を検討する。
- 在宅医療・在宅介護等に向けた医療サービスの充実を図る。

今後の取組

- 医療・介護・福祉の連携のさらなる強化を図る。
- ICTを活用した医療・介護・福祉の情報共有・管理について検討する。
- 訪問看護、訪問診療の充実を図る。

5. 施設・設備の整備

方向性

- 老朽化した施設・設備の建替え若しくは改修を行い、快適な医療施設を整備する。

今後の取組

- 国保上矢作病院及び国保岩村診療所の施設の建替え若しくは大規模改修工事に伴い、将来の医療ニーズ、患者数の動向、収支などの経営状態等を見据えた施設規模や機能を検討する。
- 慢性期の医療を提供する介護施設等を検討する。

地域医療ビジョン恵那モデル（イメージ図）

